2012 年 10 月 26 日

東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会
理事長　竹田恆和　殿

DEXTE-K　代表　橋爪　慶介
（『西なぎさ発：東京里海エイド』主宰者）
全国環境ボランティアリーダー会
幹事代表　菅原　正徳

都立葛西臨海公園における 2020 年オリンピック カヌースラローム競技会場建設計画の 見直し及び決定プロセスについての要望書

東京都は 2020 年のオリンピック・パラリンピック開催招致を表明し、ＷＥＢ上で葛西臨海公園においてカヌースラローム競技場の建設計画を発表されています。計画内容によりますと、公的資金１４億円を用いて観客席 12,000 席を新設するものとなっています。残念ながらこの情報は、ＷＥＢ上のとても見つけにくい場所に公表されています。また具体性に欠ける点で、計画そのものが、周辺自然環境への影響がどれほどなのかを知ることができません。

我々は 2020 年のオリンピック・パラリンピック開催招致そのものや主旨を否定するものではありません。2020 年東京招致を成功させるためには、貴委員会が計画内容や決定プロセスに関する情報について透明性と具体性を踏まえて公明正大に公表し、展開すべきであると考えています。

多くの地域住民や招致に賛同する者たちは、二十数年にわたって自然生態系を回復してきた葛西臨海公園・海浜公園エリアの環境を改変し、計画を遂行しようとしていることをほとんど把握していません。計画にあたり、周囲の自然環境への影響を十分に配慮していただく必要があります。

つきましては現段階の問題点と要望について整理致しましたので、ご確認の上、本要望書への対応をよろしくお願い致します。

【問題点】
1．具体的な計画案が周辺地域住民やステークフォルダーに十分説明されていない点
2．計画決定プロセスが明確でなく、市民や有識者による周辺自然環境への影響評価についてのコミュニケーションの場があるのか否か不明確な点
3．計画そのものが、周辺自然環境を損ねる可能性が非常に高い点

【要望事項】
1．現段階における具体的な計画案を周辺地域住民等に速やかに説明を実施すること
2．計画決定プロセスを公表し、周辺自然環境への影響の評価を示した上で市民や有識者とのコミュニケーションの場を十分にとること
3．将来的な視野も踏まえて、周辺自然環境を損ねる可能性が大きいと評価された場合には、葛西臨海公園におけるカヌースラローム競技会場を断念すること

以上の通りですが、以下に問題点等について若干の説明を添えます。

■各問題点についての説明と要望主旨

１．具体的な計画案と周辺地域住民やステークフォルダーへの十分な説明について

ＩＯＣ委員会による１次選考後の各国内でのオリンピック開催支持率については、マドリードの 78%、イスタンブールの 73%に比べ、東京は 47%と大きく水をあけられている状況でもあります。このアンケート結果は、オリンピック開催の具体的な各計画内容について周辺地域住民やステークフォルダーに十分説明されていない点が大きな原因のひとつになっているものと思われます。

貴委員会のＷＥＢサイトにて「招致プラン＞申請ファイル」より計画地の概要は閲覧できますが、たいへん判りづらい状態であり、詳細計画は全く確認できません。計画内容について、賛同できる内容か否かを判断することすらできない状況です。カヌースラローム競技場は秒間 13 立方メートルもの水量を流す必要があると言われています。これほどの激流を新規に増設するとなると、施設にかなりの設備能力が必要となってくるはずです。したがって、特に下記点について具体的な計画を示していただきます様、よろしくお願い致します。

① カヌースラローム競技場を建設するためには、高低差を設ける必要があると考えますが、公園内のレベル造成計画と土砂の移動をどのように行う予定であるのか？

② カヌースラローム競技場の水路はどんな仕様（断面詳細）としているのか？また開催後、水路はどのような仕様で残されてしまうのか？

③ カヌースラローム競技場で揚水等に使われる動力は相当な電力を要すると思われるが、その消費電力と動力源について具体的にどのような計画としているのか？

④ オリンピック開催後のカヌースラローム競技会場の利用方法はどのように考えているのか？12,000 席もの観覧席は、開催後どのような扱いとなるのか？

いずれも環境負荷に対する懸念からの質問ですが、ご回答いただきます様、よろしくお願い致します。回答のために時間を要するのであれば、まずは現段階における具体的な計画案について、周辺地域住民やステークフォルダー等に対して速やかに説明を実施することを強く要望致します。

２．計画決定プロセスと、市民や有識者とのコミュニケーションについて

現段階で把握している招致スケジュールは、貴委員会の WEB で公表されている通り、下記内容となっています。

2013 年 1 月 7 日	IOC 国際オリンピック委員会への立候補ファイル提出
2013 年 3 月 4 日～7 日	IOC 評価委員会による各立候補都市視察
2013 年 7 月	IOC 委員へ開催計画に関するプレゼンテーション
2013 年 9 月 7 日	第 125 回 IOC 総会にて 2020 年開催都市決定

しかしながら、開催する都市の各競技場施設周辺の住民やステークフォルダーとの意思疎通がいつの段階でなされるのかが不明確となっています。オリンピックの様な国際的なスポーツの祭典を開催するにあたり、周辺住民やステークフォルダーとのコミュニケーションなくして決定されるプロセスがあっていいものでしょうか？

また葛西臨海公園においては、公園が整備されてから二十数年が経過し、干潟を有することもあり、都心にはたいへん珍しく野鳥をはじめ、水生生物、草花、昆虫が多く育ち多種多様性に富み、市民が四季を通じて自然に親しみやすい空間となっています。

都心部における自然回帰の状況についてと、カヌースラローム競技場建設がどのような影響を及ぼすのかについては、専門家や有識者の意見を要する内容であると考えています。

したがって、オリンピックカヌースラローム競技場建設の計画決定プロセスを明確に提示していただくのと同時に、周辺住民やステークフォルダーさらには専門家や有識者とのコミュニケーションをどの様に位置づけて、そのプロセスを組み入れていただけるのかを提示していただきたいと強く要望致します。

３．計画そのものが周辺自然環境に及ぼす影響について

カヌースラローム競技会場の建設そのものが周辺自然環境に影響を及ぼすばかりでなく、その施設がどのように運営・管理され、オリンピック開催後もどのような施設として使用されるかによっても周囲の自然環境への影響は大きいものと考えています。

特に人工的につくるカヌースラローム競技場で先述したように、秒間 13 立方メートルもの水量を流すわけですから、その排水を一気に公園周囲へ排水すると周囲は汽水域のため、少なからず環境への影響が懸念されます。周囲の水域の汽水を汲み上げ、循環型の施設を建設するにせよ、給排水時の流水量による大きな変化で水生生物や海底土砂への影響は少なからずあるでしょう。どのような配慮を施した計画であるのかを具体的に提示していただく様にお願い致します。

8 月 23 日に日本野鳥の会により貴委員会に対して要望書が提出されていることから、葛西臨海公園内及びその周囲には野鳥をはじめ、水生生物、植物、昆虫、爬虫類、両生類等により多様な生態系を形成していることは周知のことと思います。生態系のなかには環境省及び東京都により絶滅危惧種や希少種とされる生物も複数確認されています。

オリンピック開催後のカヌースラローム競技場の使われ方も大きくこれらの周辺域に生息する生物たちに影響することから、将来にわたるカヌースラローム会場の使われ方を、やはり具体的に提示していただきます様、お願い致します。

カヌースラローム競技場を建設することにより周辺自然環境を損ねる可能性が大きいと評価された場合には、潔く葛西臨海公園におけるカヌースラローム競技会場の建設を断念していただく様、よろしくお願い致します。

なおカヌースラローム競技場の代替地として、下記場所を推薦致します。

既存施設利用の場合　：　青梅市御岳渓谷、千葉県佐倉市鹿島川域、千葉県香取市栗山川域
　　福島県二本松市阿武隈川域

新規施設建設の場合　：　中央防波堤埋立地の未使用土地

最後に、「西なぎさ発：東京里海エイド」の活動を通じて、葛西臨海公園及び葛西海浜公園内で撮影した多様な生物の写真と計画エリア内の現段階の条項をいくつか紹介致します。

また「「日本野鳥の会東京」の飯田陳也氏と認定 NPO 法人「生態工房」の佐藤方博氏にも現段階のカヌースラローム競技場建設計画に対する評価コメントを添えましたので、併せてご確認ください。（資料１：生物多様性、資料２：計画エリア、資料３：専門家コメント）

以上

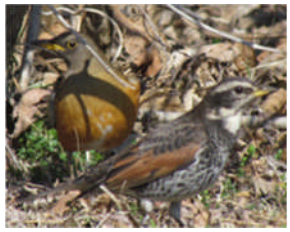
■葛西臨海公園・海浜公園内の生物多様性

【カヌースラローム競技場計画エリア内で確認されている野鳥・昆虫・草花等】

ルリビタキ

ジョウビタキ

キビタキ（雌）


アカハラ＆ツグミ

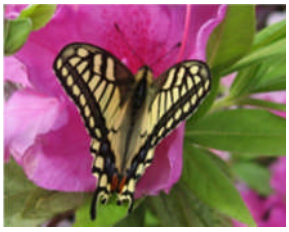
ヤマガラ

シジュウカラ

メジロ

ヒヨドリ

ホウジャク


キアゲハ

アオスジアゲハ

アズマヒキガエル（オタマ）

ムラサキゴテン

キショウブ

トベラ

ハコネウツギ

フジ

アベリア

イボタノキ

ハマユウ

モミジ

ピラカンサス

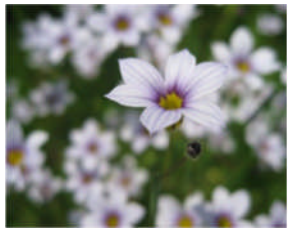
ハクモクレン

ヤエザクラ

ライラック

ソメイヨシノ

ハナニラ


ニワゼキショウ

ホトケノザ

ヒメオドリコソウ

ドクダミ

カタバミ

シャガ

ヒルザキツキミソウ

クサボケ

シラン

【隣接する「西なぎさ」で確認されている野鳥・水生生物等】

コアジサシ営巣

コアジサシ雛

シロチドリ営巣

ヒバリ

ハジロカイツブリ

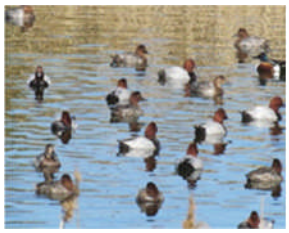
カンムリカイツブリ

ミサゴ

ハヤブサ

カイツブリ

コサギ


ホシハジロ

スズガモの群れ

アユ稚魚（調査時）

ニホンスナモグリ（調査時）

ギンポ稚魚

スズキ

青潮時の魚類（マゴチ他）

イシガレイ（青潮時）

ダツ（青潮時）

クロダイ（青潮時）

ツバクロエイ

アカエイ

シラタエビ

マハゼ

【公園内で確認されている野鳥・水生生物・昆虫等】

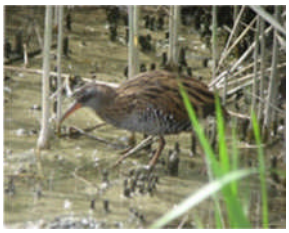
セイタカシギ

ソリハシシギ

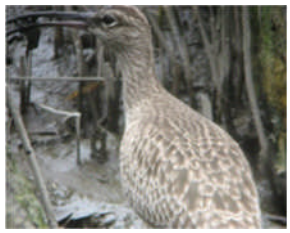
ノスリ

カワセミ

ツルシギ


クイナ

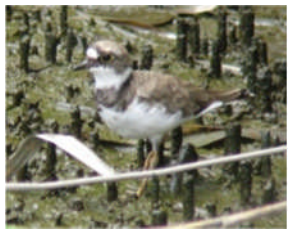
タシギ


チュウシャクシギ

アオアシシギ

アオサギ

ダイサギ


コチドリ

キアシシギ

モズ

カルガモ

トビ

ゴイサギ幼鳥

キセキレイ

オオヨシキリ

オナガ

ツグミ

ムクドリ

ギンムクドリ

アカガシラサギ

ヤマトオサガニ

アシハラガニ

トビハゼ（調査時）

テナガエビ（調査時）

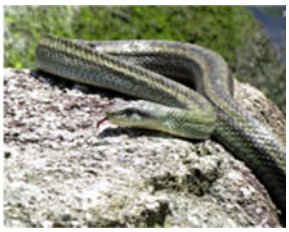
トノサマバッタ

オオカマキリ

ウマオイ

ショウジョウトンボ

ニホンカナヘビ


アオダイショウ

アズマヒキガエル

コオイムシ＆ヤゴ（調査時）

（写真はすべて公園内にて DEXTE-K 撮影）

■カヌースラローム競技場の計画エリア

赤破線が競技場計画範囲 ／ 招致委員会の資料を元に Google earth を活用し、DEXTE-K が編集

■カヌースラローム競技場建設エリアの公園の状況

【汐風の広場エリア】

【ビオトープエリア】

【桜並木】

【バーベキュー広場】

（建設エリアの現状写真は、2012 年 5 月 5 日に、DEXTE-K が撮影）

（資料３）

■葛西臨海公園内で共に環境保全活動を展開する専門家コメント

【日本野鳥の会東京：飯田陳也氏　評価コメント】

「葛西の海岸は都民の宝です！」

西なぎさ発：東京里海エイドの日頃の活躍にエールを送りたいと思います。臨海公園開園以来探鳥を続けている私たちのデータでも葛西の海はラムサール条約の適用条件を満たしています。昭和 45 年ごろ「葛西沖開発は、東京で人と海がふれ合える``最後の砦``として、葛西の海岸や三枚洲を住みかとする.鳥や海の生き物を守り、人・水・緑が奏でる新しい街を作りたいという多くの人たちの願いを受けて作られた」と東京都建設局の報告書「今よみがえる葛西沖」に掲載されています。大変な苦労の上に葛西の自然が継承されたのです。その心を引き継ぎこの自然を守っていきたいと思っています。

【認定ＮＰＯ法人 生態工房：佐藤方博氏　評価コメント】

公園整備時に植栽された樹木は、開園から23年を経た現在、樹高15m以上の混交林へと成長しました。森林が乏しい湾岸部及び都区内東部を移動する渡り鳥にとって、この混交林は他に代え難い中継地の役割を担っています。コマドリやオオルリなどの希少な鳥類の定期渡来が確認され、都内随一の探鳥のメッカとして知られています。鳥類が豊富なのは、四半世紀に及ぶ自然回復の結果、土壌や植生が発達し、餌となる果実や小動物が安定的に供給されているからに ほかなりません。このような自然環境は、多額の資金を投じても短時間では整備することができない価値をもっており、現状の改変や用途の変更は簡単になされるべきことではありません。

（補足資料）

■　DEXTE-K（ディクテック）組織紹介

・代表：橋爪慶介は、江戸川区在住（葛西臨海公園・海浜公園と同じ町）
・2007 年　プロボノ活動を主体とする建築系シンクタンクとして発足
・2009 年　葛西海浜公園／西なぎさの漂着ごみ問題に着目、漂着ごみと生物のモニタリング開始
・2010 年　複数団体との協働による市民活動「西なぎさ発：東京里海エイド」の活動開始
・2011 年　日本技術士会創立 60 周年記念大会にて論文『葛西海浜公園・臨海公園における生物多様性の現状と漂着ごみが語る人間多様性 ～「都市と自然との共生」との再生プロセス提言』を登壇発表

■　西なぎさ発：東京里海エイドの活動について

・2010 年　COP10　パートナーシップ事業として登録
・2010 年　江戸川区もったいない運動区民大会「チャレンジ賞」受賞
・2011 年　『eco japan cup』のライフスタイル部門 市民が創る環境のまち"元気大賞"『セブン-イレブン記念財団賞』を受賞
・2010 年～2012 年　活動への市民参加延べ人数：700 名以上（2012 年 10 月 20 日現在）

■　全国環境ボランティアリーダー会　組織紹介

・一般財団法人セブン-イレブン記念財団主催「環境ボランティアリーダー海外研修」に参加したメンバーが集い、地域の環境市民団体を支援し、日本の環境活動の活性化を図ること目的に活動している全国規模のネットワーク組織
・DEXTE-K 代表の橋爪慶介は、全国環境ボランティアリーダー会の一員

以上